

# 11. 内科医の実践する美容皮膚科療法

衣理クリニック表参道

片桐 衣理  
かたごり えり

## Key words

トータルアンチエイジング, 美容皮膚科, 健康な身体, 若々しい容姿, 軽やかな精神状態, 内科医

## 要点

1. トータルアンチエイジング治療が、ますます注目され、その必要性も増している。
2. それぞれの医師が専門外の方野をも学び、統括的な診断・治療が必要である。
3. 美容医療とは体内が健康なうえに成り立つ医療であり、疾患の早期発見・早期治療が必要不可欠である。
4. 美容皮膚科における外観の所見は内科疾患が起因していることが少なくなく、内科医には導入しやすい分野である。

内面的および外面的アンチエイジングを合わせたトータルアンチエイジングがあちこちで唱えられるようになり、いよいよあらゆる方面でタグを組んだ本格的なアンチエイジング療法が求められる時代になってきている。

各分野が専門的に抗加齢を追求するとともに、ほかの方野との接点を学び融合を試みる。決して単一な科の枠（または医師である・ないにかかわらず）だけにとらわれることのない意識・知識が、これからの厳しい高齢社会にとって非常に要求されているのである。

筆者の場合、大学病院にて内科（循環器）で8年勤務した後、現在は内科を基盤として美容皮膚科を中心に抗加齢診療を行っている。当時抗加齢医療を究めるのが目標だった筆者は、科を決断するにあたって、内科からのアプローチが至極あたり前に感じられた。それは美容に至るまで同様で、病気がない健やかな身体があってこそ、若々しい容姿や明るい精神状態を維持することも意味あるものとなるからである。女性の立場から抗加齢・美容医療を究めたいと念じたからこそ、内科を選択したといっても過言ではない。真の抗加齢医療は上記三つの、①健康な身体、②若々しい容姿、

③軽やかな精神状態、そのどれが欠けても成り立たないものなのである。

以下に筆者の未熟な経験値からではあるが述べられることを列記した。

## A 当院での抗加齢・美容医療（図1）

### 1. 美容皮膚科

- 美肌ドック（水分・皮脂・色素・シワ・毛穴・キメによる肌年齢）
- ケミカルピーリング（ニキビ全般、毛穴、小ジワ、シミ）
- レーザー治療（LPIRM 1による脱毛、レーザーピーリング）（QスイッチYAGレーザーによるシミ、刺青）
- 光治療（クリアタッチ・アイクリアXLによるニキビ・シワ）
- ボツリヌス菌注射（シワ、多汗症）
- ヒアルロン酸注射（シワ、たるみ、プチ整形）
- 化粧品アドバイス

### 2. 美容内科

- ダイエット外来
- サプリメント・漢方指導

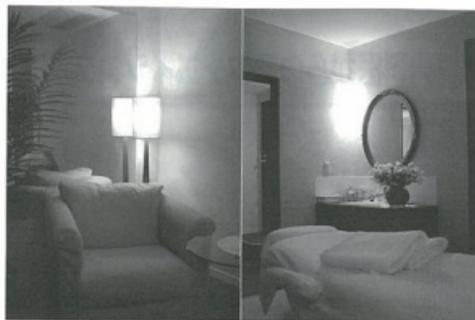


図1

患者がリラックスでき、十分に満足度を上げることができるよう落ち着いた雰囲気、カウンセリング、前述したすべての施術が同時に受けられるようになっている個室。



図2 ダイエット外来で用いられる体内組成を測定するインボディ

- キレーション
- プラセンタ・ビタミン注射および点滴
- リフレクソロジー（足裏ツボ押し）

### 3. 保険診療

内科、皮膚科の各種保険診療適応疾患において行っている（高血圧、高脂血症、高尿酸血症、糖尿病、甲状腺疾患、自律神経障害、アレルギー疾患、真菌症が主）。

## B 内科医が抗加齢医療および

### 美容医療を行う利点

- 一見表面的な老化と思われがち（シミ、たるみ、血行不良、浮腫、多汗など）の諸症状を体の内分泌や血行、代謝の変化などの内科疾患をもふまえた総合的な診断および治療対策がたえられる（美容的な容姿の改善目的にて来院される患者に甲状腺疾患、副腎疾患、糖代謝異常、鉄欠乏性貧血などを合併している症例もある）。
- ダイエット外来においてエンダモロジー、スリミングマッサージなどのエステティックな瘦身術に加え、問診・体内組成（図2）・採血検査での全身チェック・生活習慣病の有無を把握したうえで食事、運動、サプリメントなどの安全で統括的な生活指導が可能である（ダイエット目的の患者に内服治療が必要な程度生活習慣病を合併していることも少なくない）。

- キレーション、メソセラピーなどの点滴・注射における薬剤の配合やその効能を熟知し、禁忌疾患においても入念な問診のうえ、安全性の高い治療を行うことができる。

### まとめ

以上のように内科疾患に関連するサインと一般の老化サインは、似通ったところが少なくなく、それを見過ごすことのないような日々のトレーニングと実際の経験が非常に大切であり、内科医はその経験値からも比較的スムーズに抗加齢医療を実践することが可能であると思われる。

もちろん、他科においても努力次第でそれは十分に可能であり、それぞれ専門分野の感覚器官における抗加齢医療の重要性も認識されていることから、垣根のない幅広い知識の交換・共有が一層望まれる。

そして、単に健康で長生きするだけではなく、外見的にも若々しく、美しく維持（美容医療）することにより、より快適で、満足のいく人生をわれわれ自身が実践するとともに、より多くの人々にその必要性を広めていくことがこれからの大きな使命だと強く感じている。

### 文献

- 1) 日本美容皮膚科学会監修、漆畑 修、他編集：美容皮膚科プラクティス、南山堂、東京、1999